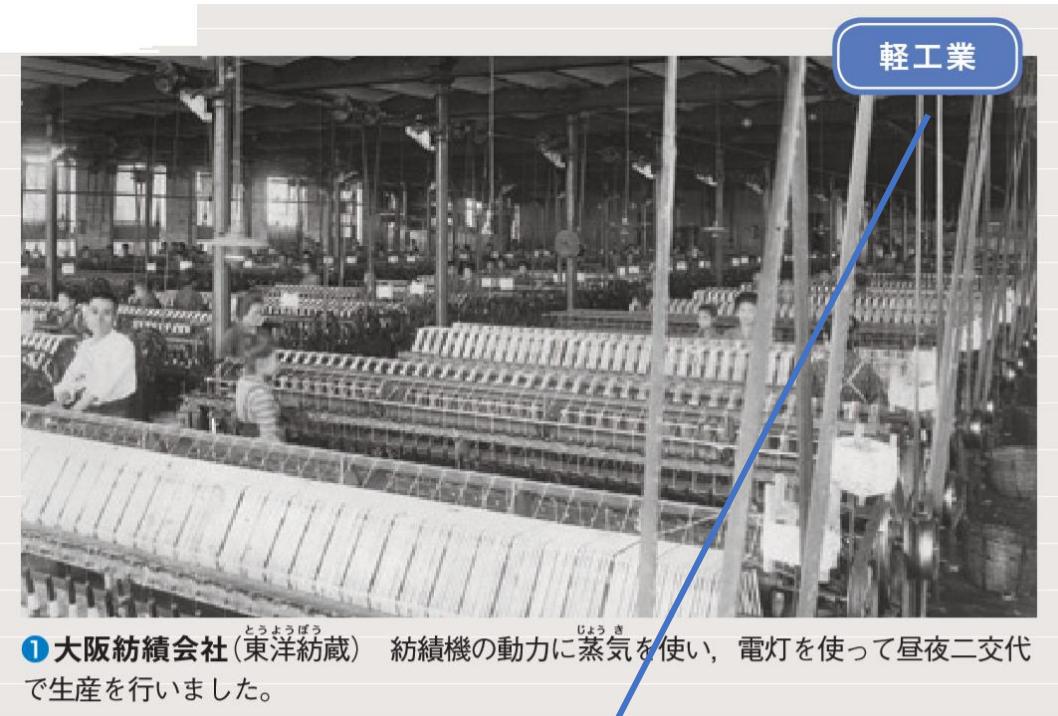
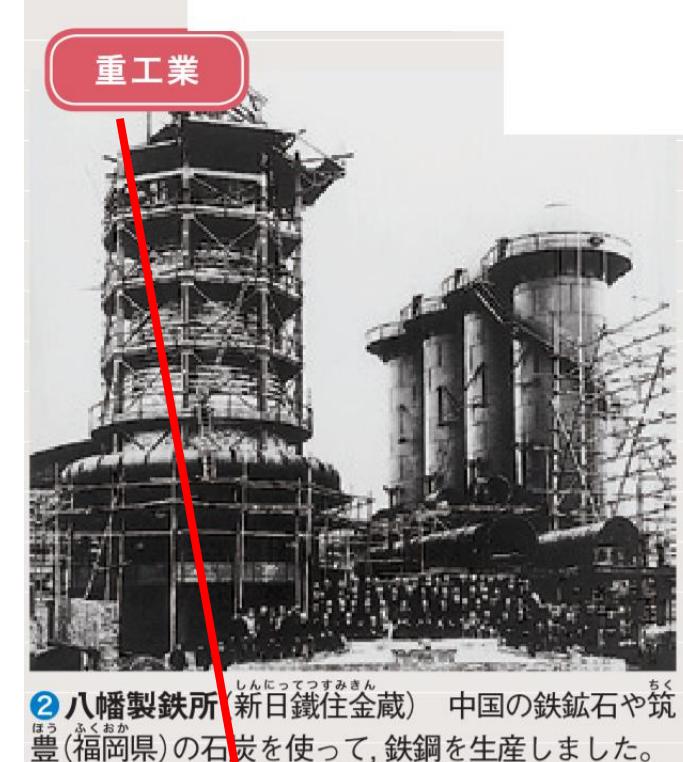


# 日本の産業革命

世界で最初に産業革命が起こったイギリスから約150年遅れで日本でも産業革命が起こった

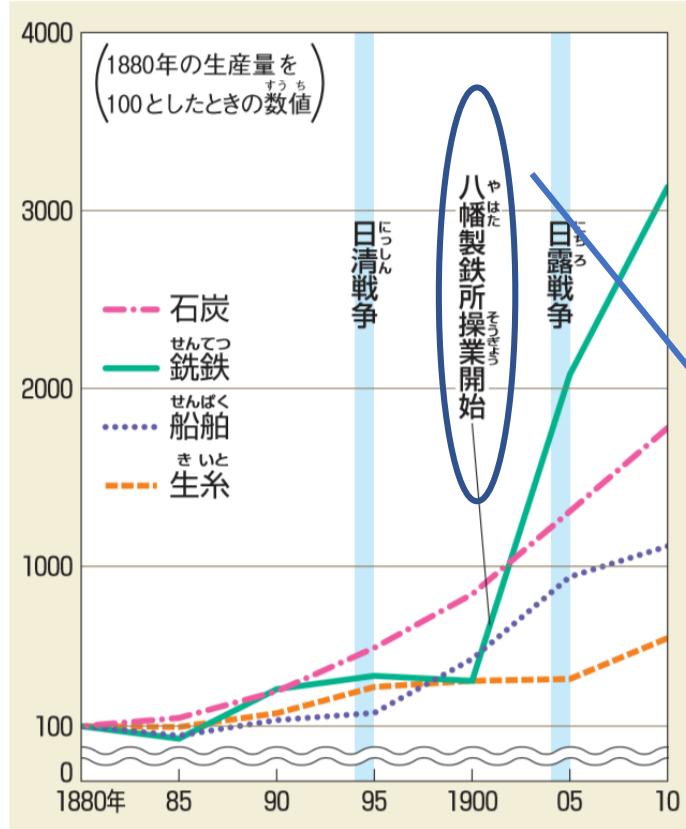


日清戦争のころに発展

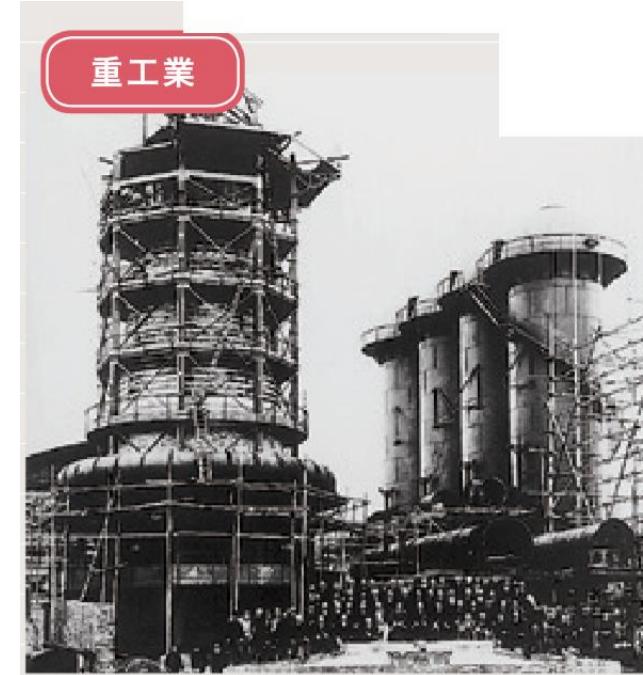


日露戦争のころに発展

# 八幡製鉄所（やはたせいてつじょ）



③主要品の生産量の移り変わり(『近代日本経済史要覧』)



日清戦争後の下関条約で得た賠償金を利用して建設された

②八幡製鉄所(新日鐵住金蔵) 中国の鉄鉱石や筑

豊(福岡県)

の石炭を使って、鉄鋼を生産しました。

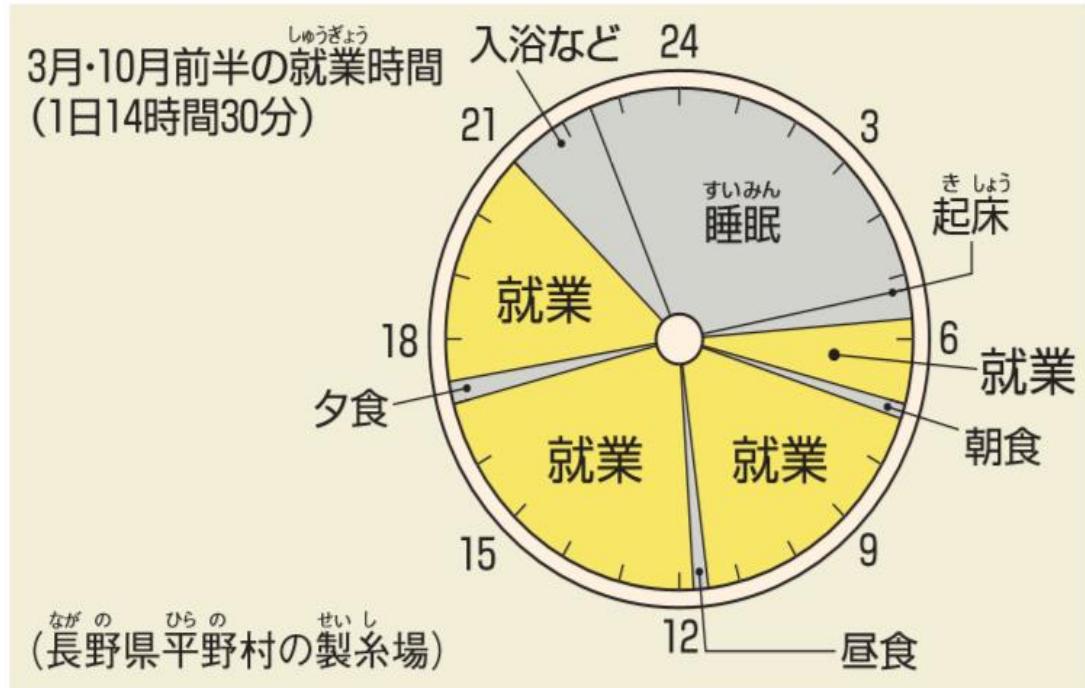
# 財閥の出現

日本で産業革命が起こったころから、政府から工場や鉱山を安くゆずり受ける企業が出現。

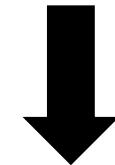
**三井・三菱・住友**など有名で、やがて金融や貿易、鉱工業など多角的な経営で日本の経済を支配し、**財閥**とよばれるようになった。

一部の財閥だけが経済を支配してもうかる仕組みになっていったんだね

# 労働者と農民



財閥など一部の資本家の暮らしは豊かになる一方で、労働者は**低賃金・長時間労働**を強制され、農民の中には土地を失い小作人となる人も多くいたんだ



貧富の差が大きくなつた

## ⑥製糸工女の一 日(『職工事情』)

# 足尾銅山鉱毒事件

近代史  
プラスa

## 日本で最初の公害反対運動—足尾鉱毒事件

栃木県の足尾銅山は、明治に入ってから飛躍的に生産量を増やし、重要な輸出産業であった製銅業の拠点の一つとなりました。

1890年ごろから、渡良瀬川に鉱毒が流れ出し、下流の田畠の作物が枯れ、魚が死ぬなどの被害が広がりました。煙害や用材のための乱伐で水源の山々ははげ山となり、1896年には大洪水が起って、3万ヘクタールをこえる土地が鉱毒におおわれました。

地元の衆議院議員田中正造は、農民とともに銅山の操業停止と被災民救済を政府に訴えました。新聞や都市の知識人らの支援は広がり、政府は鉱害の防止を命じましたが、十分な解決をみないまま、運動はおさえられていきました。日本の公害反対運動の原点といわれる事件です。

⑤足尾銅山(神奈川県 横浜開港資料館蔵)



④田中正造  
(1841~1913)  
(東京都 国立国会  
図書館蔵)

産業革命が実現した日本では銅を使ってたくさんの製品をつくるようになり外国にも輸出して利益を得ていた。

そのためには銅山から銅をたくさん掘り出さなければいけない。

ところが、銅を掘り出すときに同時に有害な鉱毒が地面から流れ出してしまう。

その鉱毒が銅山の周辺の人々の生活に悪影響になり問題となつたのが栃木県の足尾銅山だよ。足尾銅山の近くの渡良瀬川に鉱毒が流れてしまったんだ。そのとき解決に向けて立ち上がった人物が

**田中正造**で、この事件を**足尾銅山鉱毒事件**という。